

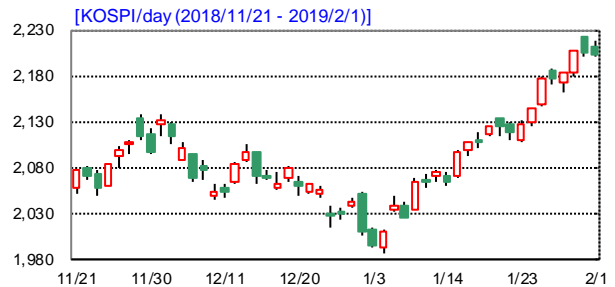


【韓国】 総合指数は 1.2%高と 4 週続伸、今週は旧正月連休で 2 日間の取引

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.2%高と 4 週続伸。米連邦公開市場委員会 (FOMC) や米中閣僚級協議といった海外イベントが意識される中で、総じて買い優勢の展開だった。週明け 28 日は下落して始まったものの、週央にかけて主力ハイテク株を中心に買いが先行。30 日には終値ベースで節目の 2200 ポイント台を回復し、約 3 カ月半ぶりの高値を付けた。ただ、この水準では上値が重く、週末にかけては翌週の旧正月連休を前にした持ち高調整の売りが強まった。今週は 4-6 日が連休のため休場となり 2 日間の取引。休場中の米株相場の動向によっては取引再開後に相場が大きく動く可能性があり注意したい。また、市場のサプライズにならないとみられるが、連休中に 2 回目となる米朝首脳会談の日程などが発表される可能性が高い。

▼指数チャート

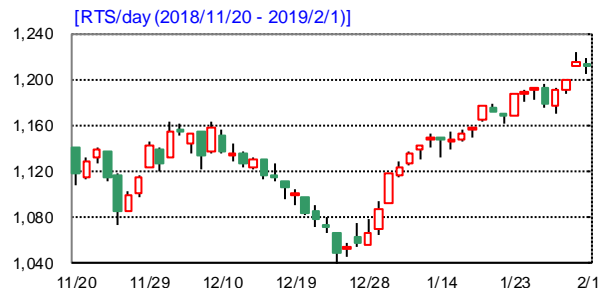


【ロシア】 RTS 指数は 1.6%高と 5 週続伸、今週も資金流出懸念の後退が支援か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 1.3%高と 4 週続伸。原油・ルーブル高に加え、米国の利上げ一時停止方針を受けて資金流出懸念が後退し、堅調な展開が続いた。週初は原油相場の下落で軟調だったが、その後は原油相場の持ち直しやルーブルの強含みで反発すると、週後半は米 FOMC での利上げや資産縮小の停止の示唆が好感された。米中通商交渉への期待も投資家心理の改善につながった。指数は週明け 28 日に 1.1%安と反落したが、29-31 日の 3 日間で 3.0%高となり、約 10 カ月ぶりの高値を更新した。個別銘柄では、金融のズベルバンクや石油のルクオイル、非鉄金属のノリリスク・ニッケルなど時価総額上位の銘柄が上昇し、指数を押し上げた。今週は資金流出懸念の後退が支援となるか。

▼指数チャート

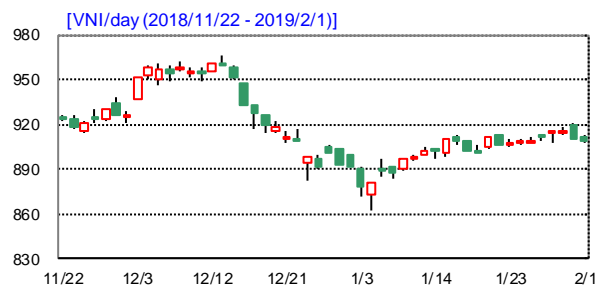


【ベトナム】 ベトナム指数は 0.02%安とわずかに反落、今週は底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.02%安とわずかに反落。前週からの堅調な流れで週前半は続伸したが、その後は利益確定売りに押され、ほぼ横ばいで終了した。週前半は米中通商協議への期待が高まる中、前週からの堅調なモメンタムが続き、他の東南アジア市場が軟調に推移するのを横目に逆行高。指数は 29 日まで 5 日続伸し、30 日には昨年 12 月 20 日以来となる 920 ポイントを一時上回った。しかし、その後は米 FOMC で利上げや資産縮小の停止が示唆され、新興国からの資金流出懸念の後退を背景に東南アジアの多くの指数が持ち直す中、VN 指数は利益確定売りに押された。個別では時価総額最大の不動産のビン・グループが 4.0%安となり、指数の重しとなった。今週は新興国からの資金流出懸念の後退を支援に底堅い展開か。

▼指数チャート

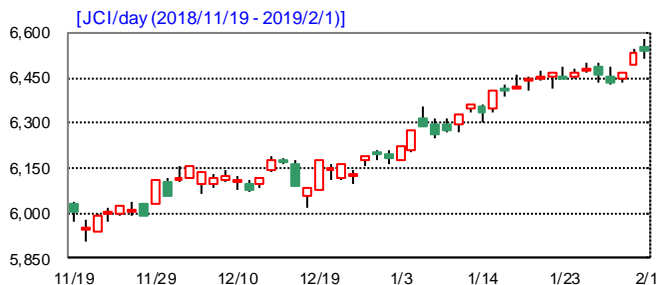


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%高、今週は 18 年 10-12 月期の GDP が焦点

ジャカルタ総合指数は週間で 0.9%高と 6 週続伸。1 月月間では 5.5%高。先週は週半ば以降の上昇が指数を支えた。28 日は 30 日からの米中貿易協議を控えた様子見で 3 営業日ぶりに反落。29 日は米司法省が中国の華為技術を起訴したことで両国の関係悪化が懸念されて続落した。ただ、30 日に下げ止まると、31 日は米 FOMC が前日までの会合後に発表した声明で、追加利上げについて慎重な姿勢を示したことが好感され、指数は終値で 6500 ポイントに到達。1 日には 11 カ月ぶりの高値を更新して取引を終えた。今週は 4 日発表の 18 年 10-12 月の GDP に対する市場の反応が焦点。5 日は旧正月のため休場となる。

▼指数チャート

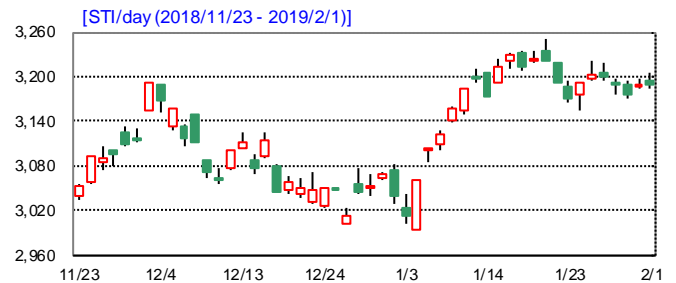


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%安、今週は 1 月の製造業 PMI に注目

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%安と続落。1 月月間では 4.0%高。先週は総じて軟調だった。28 日は中国の 18 年 12 月の工業部門企業利益が前年同月比で減少したことが嫌気されて反落。その後も 30 日まで 3 日続落したが、31 日は FOMC の声明内容が好感されて反発した。ただ、1 日は中国の 1 月の財新製造業 PMI が市場予想から下振れしたことなどの影響で反落。今週は 4 日発表の 1 月の製造業 PMI に対する市場の反応が注目される。前週末に発表された米雇用統計で非農業部門の雇用者数が予想を上回り NY ダウが反発したことは好材料。4 日は旧正月前日のため半日立ち合い、5-6 日は休場となる。

▼指数チャート

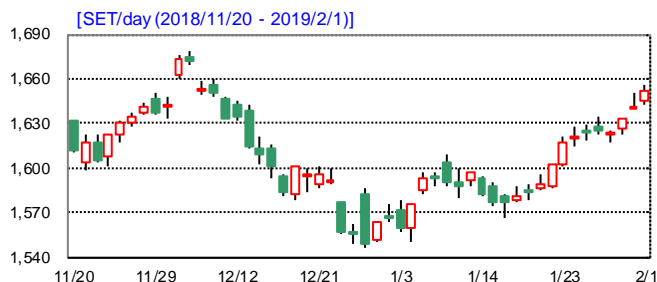


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.7%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 1.7%高と続伸。1 月月間では 5.0%高。先週はおおむね堅調に推移した。28 日は小幅ながら 9 営業日続伸してスタート。29 日は反落したが、30 日は 18 年の決算で大幅増益だった PTT エクスプロレーション・アンド・プロダクション (PTTEP) が指数上昇をけん引した。1 日は前日に終了した米中閣僚級貿易協議で一定の進展があったことが好感され、終値で約 2 カ月ぶりの高値を更新し、3 日続伸して引けている。今週は 6 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。1 日に発表された 1 月の CPI 上昇率は前年同月比 0.3%と中銀の目標値を下回っており会合後の声明内容が注目される。

▼指数チャート

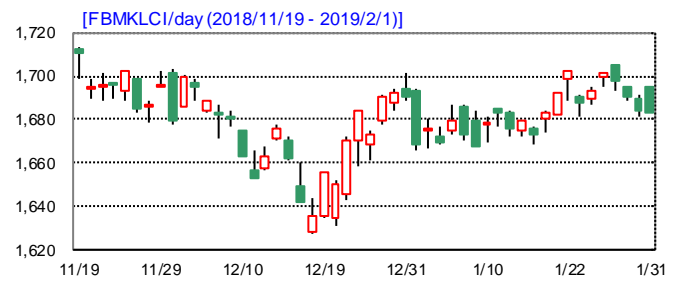


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.0%安、今週は米ドル安・リンギ高の継続に期待

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.0%安と 4 週ぶりに反落。1 月月間では 0.4%安。先週は買い材料に乏しく、週初から 4 日続落と軟調な値動きだった。28 日に終値ベースで 1700 ポイントを割り込むと、29 日は前日の NY ダウが反落した流れで続落。30 日は FOMC や米中の閣僚級貿易協議に対する様子見で売られた。31 日は引け際にテナガ・ナショナルとホンリョン銀行が急落したことが重しとなり、2 週間ぶりの安値を更新して連休前の取引を終えた。今週も国内の経済指標発表が少ない中、為替相場での米ドル安・リンギ高が続けば好材料。4 日は旧正月前日のため半日立ち合い、5-6 日は休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。